

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成18年8月

第20号

会長挨拶

建設会会長

吉川 征史

昭和四十二年卒



建設会会員の皆様方におかれましては、益々御清祥のことと心よりお慶び申し上げます。皆様方の日頃からのご協力に對しまして、心より厚くお礼申し上げます。

私は平成十四年三月まで公務員でしたが、その後民間で世話になっております。建設業に係る環境は、官民共に厳しさは増すばかりで、特に落札率とか、

効ではないでしょうか。これなら談合とは言わず、共同研究の開発と言えりましょう。

官は民に怯え、産は談合に価格に怯えといった、三疎み状態では、公共事業の発展はないのではないのでしょうか。

必ず近い将来起るであろう、南海、東南海地震への大学と一体となった対応策や新しい提案、技術開発などに目を向けることも有効だろうと思われます。

私は、一年位の海外出張経験しかないのですが、中国やインドなど、環境都市系の仕事には限りない可能性のある地域が世界中にあり、狭い日本にこだわらず、広く世界に目を向けるこ

とも必要ではないでしょうか。

又二〇〇七年問題、所謂団塊の世代の一斉停年退職についてですが、技術の伝承とか、職場の人員構成等に大きな問題が生じる恐れがありますし、個人にとつても、年金の支給がこれから六十五歳までなく、タダなのは、空気だけという時代を考えると、少しでも永く働くことが、国にとつても重要なのではないかと思います。権限や勤務条件は、若い人に譲ったとしても、停年になったからといって知識や経験が急になくなる訳ではないのですから、働き続ける努力が重要だと思えます。中国では、文化大革命によつて約十五年間

有能な人材が少ない空白の世代があります。日本の団塊の世代は五年位ですが、是非日本では空白の時代が生じないよう、特に建設会の皆様が互いに協力し合つて、楽しく働けるよう努力をお願いしたいと思います。

建設会の会員の皆様におかれましては、少し口幅つたいようですが、今の日本の現状において縮むことなく、健康には気をつけて頑張つてほしいものだと思います。

最後になりましたが、今後とも、建設会会員皆様のご指導、ご支援をお願い致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

BKCからごあいさつ

環境都市系 学系長
環境システム工学科 教授
中島 淳



大学は琵琶湖草津キャンパス(BKC)から、建設会の皆様にご挨拶申し上げます。会員の皆様におかれましては、建設会への日頃のご協力、とくに学生諸君へのご指導ご支援に、深く感謝申し上げます。

おかげさまで、学園では四月に附属小学校の開校と立命館守山高高等学校のスタート、また来春には立命館守山中学校の開校予定ということで、附属校の充

実がすすめられています。こうして現在、附属高校が四校に増えましたが、とくに新しい守山高校では、理数系の科目を全員が必修科目として履修するなど、理数ばなれがすすむ中で、理工系の学部へすすめる可能性を大切にしたい教育が取られることとされています。

附属高校の諸君に対しては、ここBKCを舞台に高大連携の教育プログラムが始められてい

ます。第二期に入ったSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校の深草(立命館高等学校)からは、高校の三回生が大学の講義を受講し、進学後にその単位認定も行われています。SSHの学生たちは、私たちの学系にも進学してきており、今後さらに増加すると思われます。

高校生のお話をさせていただいた理由は、理工系の人材育成のための戦略は、大学入学後にスタートしたのでは遅く、中学や高校の段階が重要なことが認識されるようになってきたからです。守山高校やSSHの取組は、それに対する新たなチャレンジとご理解いただければよろしいかと存じます。

学系二学科で認定を受けたJABEE(日本技術者認定機構)についても、こうした我が国の技術の継承発展といった目標を持つて取り組みましたが、ワシントンアコードへの参画で示されたように、我が国の技術者レベルを、国際的に認めさせてゆくうえで大きな意義があったと思つています。

このように、昨今の学園や大学とくに本学系では、社会から求められる技術者育成に力を入れた教育をすすめています。同時に教育研究における国際化も急速に進展しています。国際協力事業への参画や、短期の研究事業や海外の大学院とのリンケージプログラムなどがすすめ

られ、また学生の短期留学プログラムも多数開発されています。ただし、理工系の留学希望者数は、文社系と比較すると少なく、課題となっている点は残念です。

学系が三学科となった二〇〇四年度に入学した学生達は、現在三回生になったところですが、来春にはいよいよ就職活動となります。建設会の皆様には、一層のご指導ご支援をよろしくお願ひしたいと思います。なお、本年九月には、BKCで土木学会の全国大会が開催されます。これを機会に、どうぞ母校のキャンパスにお立ち寄り下さい。

末筆ながら、会員の皆様のご発展とご健勝を心よりお祈りしております。

会員の声

京都支部長就任雑感



京都支部支部長
山田 稔
昭和三十五年卒

建設会会員の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

私、昨春秋より京都支部の支部長をつとめさせていただいております。京都支部は会員数一千二百人を越え、また、歴史ある支部であり半年を経過した今日、任務の重さを再認識しているところです。会員の殆どが建設業関係の仕事に携わっているか、あるいはその経験の所有者であり共通の話題があることは会の運営に心強いところであります。

最近の日本の景気は石油の高騰、外国経済の動向等で将来に不安はあるものの回復傾向にあると言われておりますが、建設業界は依然厳しい状況であり二年以内には大きな変化があるといっている人もあるような状況です。民間では今後建設業界の発展には、技術力の向上だけでなく、更なる経営努力も必要となってきております。官においても建設行政は危機管理の一環を担っている事から緊急対応出来る状態確保が必要と考

えています。このためには、お互いに状況把握しておくことが有効と考えています。

私は、学校卒業後三つの自治体と現在の民間会社で土木の仕事一筋で過ごしてきました。印象に残っているのは、地元とよく話し合い、相互理解の上施設を完成させたことであります。

最近では官の人と民の人が話をすることが難しくなってきたように感じています。建設会は同窓生の親睦の場でもあり、立場を越えて話が出来る交流の場所でもあります。限界はあるにせよ、情報を交換しお互いが建設業の発展に寄与出来ることを期待します。このようなことも意識しながら支部の運営をしていきたいと考えています。

最後に立命館大学と建設会の発展と会員の皆様のご多幸をお祈り致します。

BKCの地元滋賀から近況報告



滋賀衣笠会
中谷 恵剛
昭和四十八年卒

建設会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。今回機会を頂きましたのでびわこくさつキャンパスの地元事情をご紹介します。最近考えていることを少し述べさせていただきます。

滋賀県は人口百四十万人のこちんまりした県(面積四〇一七Km²、内琵琶湖六七〇Km²)「最近琵琶湖の面積を周りの市町に振り分ける動きがある」ですが、京都・大阪に実距離・時間距離共に近く、人口の増加が続いて

人口増加が将来とも続く数少ない県と言われており、中でもBKCが位置する草津市を始め、その周辺の栗東、守山、野洲、湖南等の各市は人口増加率も大きく、『住みよさランキング(東洋経済新報)』の上位にランクされている市もあります。

いずれもJR駅周辺に市街地が形成され(古来より東海道、中山道の沿線であった)、その周りにはまだ農地があり、線引き次第ではまだ受け入れる余地が多くあります。

そのようなこともあり大規模店舗の進出も盛んで取容力の大きな駐車場を持ち、旧来の市街地の周辺に立地するスタイルで全国チェーンのスーパー、電器、日用雑貨などがしのぎを削っています。

こうしたいわば右肩上がりの状況下にある訳ですが、ややもするとインフラ整備が追いつかない事にもなっており、過度の集中によって限られたエリアで、なにがしかの弊害が生じるといった事になりかねません。

便利さが損なわれることなく、恵まれた自然を活かし、災害にも強い地域づくりのため特に建設会系が今までにも増して広い視点を持って知恵を出すべき時と思っています。

道路・街路、河川(水辺)、緑豊かな公園、身近な公共施設などなど、一朝一夕に出来ることではありませんが、個性があり文化的風土を併せ持った暮らしやすい地域、街、場所を若い世代が多い元気な時にこそ既存施設の更新と併せて効率よく整備して行くことが必要でしょう。

ところで私は現在、前記五市等に水道水・工業用水を供給している滋賀県南部水道事務所(所在地 野洲市)に勤務しております。ご多分にもれず人口が増えても水需要の増加には結びつかない中、節水をPRしつつ琵琶湖(北湖)の水

を汲み上げ供給しているところです。

水需要が伸びない中ではありますが、浄水場の機械・電機設備や配水管の更新、震災対策など喫緊の課題を多く抱えています。独立採算制に受益者負担の仕組みの中での仕事ですが、上水道の果たしている役割(感染症防止、消防水利など)から見てもっと公的支援があつて良いのじゃないかと思つています。

とにかく水道水は安いので、無駄遣いはいけません。ゆつたりした気持ちでお使い頂ければ水道事業者はありがたいです。

「二トンの物が百〜二百円で買えるなんてのは他にはありません。ちなみにペットボトルの水で風呂一回分なら二百÷二＝百本必要
百本×二百円＝二万円!」

最後になりましたが会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

「先輩から後輩へ」



広島県支部
河本 秋信
昭和五十二年卒

本年六月二日、広島全日空ホテルに伊藤満先生をお迎えし、第三十九回の定期総会を開催。幹事一同奮闘努力した結果、若い会員の参加も多く、また女性会員の真邊紀衣さんに司会をしていただいたこともあつて華やいだ総会となった。

それにしても公共事業悪玉論が横行し我々土木技術者が肩身の狭い思いをしているためか、ビックプロジェクトがないためか、会員間から元気な声が開かなくなつてきている。テレビの特集等で、高速道路を走りながら「全然車が走ってないですね。

この道路は不要ですわ」といったシーンがよく見受けられるが、日本で一番便利な東京に住んでいて何が分かるかとの思いがある。今冬は豪雪で大きな災害をもたらしたが、高速道路は、地域にとつて将来に命の道である。これまで経済性・効率性を大きな尺度としてやってきたが、根本的なものが抜け落ちてきているような気がしてならない。

建設業界を激変させたものの一つに規制緩和がある。新規参入者が増加した結果、企業も生き残りをかけエンドレスの競争を強いられており、低入札工事が多くなつてきている。アメリカでは株主が一定のプレーキとなつてはいるが、日本では会社を潰さなければ良いという風潮があり、低入札工事は一向に減少しない。

私は、昭和五十二年に広島市に奉職し、一環して水道畑を歩んできた。平成十三年二月に公正取引委員会から排除勧告がなされた、本局発注の配水管布設工事に係わる談合事件の処理に携わった一人で、この談合事件を契機として、大幅に規制緩和を行い、入札制度を指名型から公募型に改めるなどした。

現在、入札参加業者数は、従前の二十九者から七十二者へと大幅に増加し、今年度の平均落札率は六十三・三七%である。企業は生き残りをかけ、技術力のある経験豊富な熟練労働者から若年労働者へと転換を進め、賃金も大幅に引き下げるなどして、低価格での応札を繰り返している。一方、品質確保については、発注者側として監督・検査体制の強化で対応しているものの、確実に請負者の技術力は低下してきているように思われる。

日本の技術を支えてきたのは団塊の世代である。これら団塊の世代の人々が退職時期を迎え、さらに企業が低賃金労働の雇用に切り替えていく中、現場での生きた技術・経験・ノウハウをいかに継承していくかは、あらゆる分野で大きな課題となっている。

我が建設会の先輩方には凄腕の技術や経験、英知を持った人が大勢おり、これを学ばない手はない。これから若い技術者には、人の輪を広げ、自分を磨き、深く考えるひたむきさを求めたい。

来年は、建設会広島県支部が設立されて四十回の節目を迎える。この総会が若い技術者の自己研鑽なり飛躍のキッカケの場になることを期待し終わりたい。「来たれ！若人！」

福岡オリンピック招致



福岡県支部
小川 宗正
平成九年卒

イナバウワーで世間の話題をさらつた荒川静香選手。その荒川選手が金メダルを獲得したトリノオリンピックはまだ記憶に新しいことと思えます。オリンピックは、夏季大会と冬季大会があり、それぞれ四年ごとに都市が主体となつて開催されるスポーツの祭典です。昨年末、二〇一六年夏季大会の開催地に福岡市が立候補を表明しました。そして、今年四月に、日本オリンピック委員会へ「大会立候補意思表明書」を提出しました。

ここで、オリンピックについて、改めて調べてみました。近代オリンピックは、フランスのピエール・ド・クーベルタン男爵の提唱により、記念すべき第一回大会が古代オリンピック発祥の地であるギリシアのアテネで一八九六年に開催されました。アマチュアリズムを基本とし、古代の平和の祭典の復興を目指したオリンピックでありま

すが、二度の世界大戦や、ミュンヘン大会におけるテロ事件、冷戦下での東西のボイコット合戦など、時々国際政治の影響が大きく現れました。

また、大会の大規模化とともに開催に伴う開催都市負担が問題となりましたが、一九八四年のロサンゼルス大会のころから、商業主義が加速し、一大ビジネスチャンスとして注目されるようになりました。近年は、誘致活動に国際オリンピック委員会（IOC）委員への賄賂が提供されたことなどが問題になりました。そして、二十一世紀型のオリンピックとして、環境への負荷を軽減することやよりコンパクトな大会運営を図ることが求められるようになりました。

さて、福岡市は、オリンピックの招致・開催により、「活力あるアジアの拠点都市」や「海と歴史を抱いた文化の都市」などの都市像をめざすとしております。博多湾沿いに、三つの施設集積エリアをコンパクトに配置し、既存ストックと特設（仮設）施設を有効に活用する、また、新設する施設についても後利用を十分に考慮するなど持続可能なオリンピックをめざすとあります。

しかし、財政状況に対する懸念や少子高齢化による社会保障費の増大などオリンピック招致よりも、身近な社会問題に取り組んでもらいたいと願う市民も少なくありません。

このように、福岡市民を二分するオリンピック招致であります。今年八月に国内候補地の選定が行われ、その後、IOCで五都市を選出し、二〇〇九年に開催地が決定することになります。まだまだその先のハードルは高いですが、それを乗り越えるためには、福岡市民全体のバックアップが必要であると考えます。

最後に、近年、公共事業に対する風当たりが厳しく、同じようなこと

が我々土木技術者に課せられていると思います。二十一世紀型の持続可能な社会資本整備を進めていくために、さらなるコスト削減と市民への説明責任を果たしていく必要があると考えます。

BKCと緑



建築都市デザイン
学科講師
武田史朗

BKCに来てから夏はまだ三回目だが、今までにキャンパスの姿がいろいろと変わるのを目にした。学生交流施設「セントラル・アーク」が建設され、名神高速道路がキャンパスの目の前で開通するのも目にしたし、今もバス・ロータリーにはインフォメーション・センターが建設中である。キャンパスが文字通り成長しているという印象を持つ。

一方、建物や道路だけでなく、キャンパスの緑も少しずつ変化をしているようだ。昨年度末から入学式までの間にキャンパスの中心である噴水の周りに桜やケヤキの樹木が植え足され、足元の幾らかの面積に芝生が張られた。前年度、数名の先生方がBKCをより大学らしい空間とするために緑を増やして欲しいという申請書を出されたという噂を耳にしていたので、もしそれが聞き入れられたのなら大変よいことだと思った。けれども工事の様子を見ていると心もとない部分もあった。インターロッキングの舗装が広範囲に剥がされたあと、土壌を入れ替えるのかと思つたらそうはせず、樹木を植える部分だけに小さな穴が掘られてそこにすぐ根鉢が据えられ、周囲の露出

した路盤にかぶせるようにして表土が敷かれ芝が張られてしまったのである。舗装のなくなった分だけ表層には雨水が浸透するかもしれないが、いくら表土を乗せたといつても地中の四周が硬い路盤では根の伸びようもない。「キャンパス・プロムナード」と称する目抜き通りのユリノキの並木も、同様の事情で育ちがわるいのだと納得した。

個別の工事よりも、キャンパスに緑地の将来計画がないことが響いているのではないかと思う。「セントラル・アーク」の建設中も、建設地にかかるひよろひよろのクスノキ並木をさつさと引き抜いていたが、たぶん植えたときから抜くつもりだったのだろう。これでは植栽に余分な費用を掛けられるはずがない。

建物はどこにでも単年度で建つが、樹木はゆっくりと育つし環境を選ぶ。育てるところと育てないところを明確にして集中的に整備すれば、十数年後には失われぬ風格が得られることだろう。成長を続けるキャンパスであればこそ、緑地の計画にも将来的なビジョンを持ち、キャンパス内外の自然と共に歴史を刻んでゆく姿を内外に見せてゆく必要があるのではないだろうか。

「ある日、森の中」



都市システム
工学科講師
塚井誠人

私が学部の就職担当（補佐）をさせていただくようになってから二年がたちました。今年はやや売り手市場のようで、学生の皆さんが夢や希望を膨らませながら就職活動に取り

組んだ結果を嬉しそうに報告してくれると、こちらも元気がでます。

しかし中には結果を出せずに苦しむ人もいます。時には教育的な観点から教授の先生が学生指導される機会や、OBをはじめとする企業のリクレーターのの方が教育的な観点から学生の相談に乗って頂いている機会に、私も同席することがあります。そこで横から話を聞いていると、忍耐強くまじめに学生の相談に乗る／とにかくにこにこして勇気づける／皆まて言わずにがつんと叱り飛ばしてから話を聞いてアドバイスする等、実に様々な方法で、先達の方々は学生に應對されているようです。

一方、私が一人で應對する場合、学生さんが自分自身の置かれている「状況の説明」をうまくしてくれないことや、「状況が入り組んでいて説明しにくい」ことも多いので、共通認識に辿り着くまでに相当な時間がかかります。また折悪しく私の側に精神的な余裕がないと、誤解に基づいて相手を非難したり、私の消極的な態度が学生さんに伝わって相談する気持ちも萎縮させてしまったり、といった失敗もしてきました。そんなわけで、暗い顔をした学生さんたちのその部屋に入ってきたときは、一瞬「死んだふり」ができないかどうか、つい考えてしまいます。

私が前向きな態度でうまく学生さんの気持ちを整理してあげて、できれば奮い立たせる秘訣を会得したいとは思いますが、こればかりは経験を積むほかはないようです。曲がりなりに話を聞いてアドバイスをした学生さんが、なんとか結果を出して報告してくれると、いつもの倍以上は嬉しいのも事実です。もちろんその場合は、同じ相手に即座に「椅子を勧める」ことを考えています。以上、現場からでした。

- 学術講演会 9月20日(水)~22日(金) [立命館大学 びわこ・くさつキャンパス]
- 特別講演会・全体討論会・交流会 9月21日(木) [大津プリンスホテル]
- 関連行事 コンクリートカヌー競漕会 9月23日(土) [琵琶湖：守山市山賀町湖岸緑地赤野井吉川地区赤野井-1]

土木学会全国大会

立命館BKCにて開催

平成18年度土木学会全国大会が、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて開催されます。例年、延べ1万人ほどの参加者のある大きな大会です。

20日(水)~22日(金)の3日間開催される年次学術講演会への参加は、学会ホームページ (<http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h18/index.html>) からの申し込み制になっています。この機会にぜひ母校を訪れて下さい。

21日(木)の午後、大津プリンスホテルを会場に開催される特別講演会および全体討論会は土木学会会員でなくても参加自由です。今年度の大会メインテーマ「土木のグローカリゼーション~世界市民になろう~」にちなんだ行事が予定されています。最近、経済学や人類学をはじめとして様々な分野で注目されている「グローカリゼーション」とは、「ローカル性を活かした活動を行い、それをグローバルに発信する」ことを意味します。全体討論会では、このテーマについてパネリストが討論を繰り広げます。渡辺正幸氏（国土交通省から、国際協力事業団を経て、有限会社国際社会開発研究所代表）、河田恵昭先生（京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授）、坂本和一先生（立命館大学教授、元・立命館アジア太平洋大学学長）、そして福島敦子氏（フリーアナウンサー、エッセイスト）の四人にパネリストをお願いしています。

また、今年度の新しい試みとして、コンクリートカヌー競漕を実施します。全国大会パネルセッションにおいてカヌーならびにその製作意図を展示して技術力をアピールするとともに、全国大会関連行事として、9月23日(土)に琵琶湖の烏丸半島付近においてカヌー競漕会を行うものです。30艇以上の参加が予定されています。コンクリートへの新しい材料・産業廃棄物の使用、新構造形式の適用、低コストの実現などをはじめとして、ユニークな発想と技術力を競い合える大会になることを期待しています。コンクリートカヌー競漕会の見学は、一般の方も参加歓迎です。

建設会会員の皆様のお越しをお待ちしております。

第13回建設会総会・特別講演会・懇親会のお知らせ

下記の要領にて第13回建設会総会・特別講演会・懇親会を開催致します。特別講演会では、20年にわたりODAに協力してこられた本学の山田淳先生からプロジェクトの作成と事後評価の事例について、また、「インクライン物語」や「野洲川物語」をはじめとして、土木界の先達の偉業を伝える小説を多数執筆してこられた作家の田村喜子先生から土木技術者の夢と理想についてご講演をいただきます。多数の皆様のご参加を期待しています。

記

- 【日時】 2006年10月21日(土) 13時30分～19時
 【場所】 京都タワーホテル [京都市下京区烏丸通七条下ル JR京都駅正面 Tel.(075)361-3212]
 【会費】 10,000円
 【次第】 13:00 受付開始
 13:30 総会 [飛雲の間]
 議事(事業報告、決算、予算)、大学近況報告、支部活動報告等
 15:00 特別講演会 [飛雲の間]
 「水供給分野のODAプロジェクトと国際技術協力」
 山田 淳氏(立命館大学 理工学部 環境システム工学科 教授)
 「土木のこころ」
 田村喜子氏(作家)
 17:30 懇親会 [八閤の間]

- 参加申し込みは前納とさせていただきます(9月20日締め切り)。できるだけ所属支部にておとりまとめの上お申し込みいただければ幸いです。同封の総会専用払込票にて、個人でお振り込みいただいても結構です。

※ご不明な点等ございましたら、建設会事務局までお問い合わせ下さい。

事務局より

お知らせ

■平成18年度版・建設会会員名簿の発行

建設会では、今年12月初旬に「平成18年度版建設会会員名簿」を発行予定です。名簿は隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。

このデータベースは下記の目的で利用しております。

- ・建設会名簿(非売 会費納入者に発送)の作成
- ・総会、講演会、講習会など各種行事のご案内
- ・建設会各支部からの連絡
- ・会費請求にかかわる事務
- ・その他、上記に関連する業務

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」文書上段に記載されているデータをご確認いただき、修正や変更がございましたら**8月末日までに**建設会事務局までご連絡下さい。

また、会員名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(2年に1度の発行ですので、平成17年度・18年度分の会費納入者、ならびに終身会員に送付させていただきます)。

なお、平成17年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(平成17・18年度分:6,000円)を納入いただきますと、発行と同時に名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。2006年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。申込み手続きは簡単ですので、すでに多数の会員の方にご利用いただきご好評をいただいております。お申込みの際には、取扱郵便局「草津若草郵便局(TEL:077-567-4050 FAX:077-567-4120)」へ申込書の送付依頼書(様式適宜・住所氏名を記載)をFAXにてお送り下さい。毎年10月1日に会員様の郵便貯金口座から年会費が自動引き落としされます(8月末以降のお申込みは、翌年10月1日からとなります)。詳細については、郵便局から送られてくる申込書に同封されます。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
 立命館大学理工学部環境都市系事務室内(担当:山元)
 TEL:077-566-1111(内線8701)
 FAX:077-561-2667
<http://www.ritsumei.ac.jp/se/rv/ob.html>
 E-mail:yyv97024@se.ritsumei.ac.jp
 会費払込郵便振替口座:02 京都 01080-1-884